

ミニツツペーパー

アクティブラーニングでは、内化→外化→内化のプロセスが大事だと言われています。そのうち、認知プロセスの外化を促す方法の一つとして「書く」ということがあげられます。

ミニツツペーパーは、授業中に短い時間をとって学生にコメントを書かせる技法すべてを指します。そのため、フォーマットや活用方法は多様で、書いてもらう内容は質問、感想、理解度、授業のまとめなど様々です。そのためミニツツペーパーの活用には、書く項目、目的、時間、評価との関連などに関して、明確に指示をすることが重要となります。

科目名：分子生命科学 I

担当者：児玉豊 先生（バイオサイエンス教育研究センター） 他

農学部の専門科目である「分子生命科学 I」はオムニバス形式の授業であり、複数の視点から「分子生命科学」について学ぶことができます。

児玉先生の授業では、ミニツツペーパーを用いた学生との双方向的なやりとりが重視されています。

分子生命科学	2016年 月 日
所属学部： 農学領域	所属院部： 農学研究所
所属学科： 分子生命科学	所属学年： 生物一年 学 学年
名前：	学号番号：
Quizの答え：	
今回の講義におけるQuizの得意点と思いますが、あれはなぜ？	
今日の授業の授業感想は？ たいへんはかたがた；ほかほか；普通；ほかほか；全くダメ； 授業内容が面白く、勉強になりました。	

クリックして[拡大](#)

毎回授業の終わりに、ミニツツペーパーに質問を書いてもらい、次回の講義のはじめに質問20～30個に答えていきます。質問は講義内容に関する疑問点から研究に関すること、大学生活に関することなど多様に受け入れているとのことでした。

ひとりひとりとのやり取りの難しい大人数授業のため、ミニツツペーパーを通して学生との対話を大事にされているとのことでした。